

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先の誰もが目にする事ができる場所に理念を掲げ、職員やお客様にもわかるようにしている。 そして、職員は理念に沿った生活が送れるように日々努めている。	「共に」の理念は来訪者の目にもふれる玄関先と事務所に掲示して共有と実践に繋げている。理念の持つ意味を理解して職員が全ての仕事を行うのではなく「掃除」「洗濯たため」等を利用者と共に楽しみながら行っている。家族には利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前までは地域の各行事等に参加していたが、感染予防の為 外出や交流する機会が少なくなった。しかし、グループホーム前は座光寺地区の方や元善光寺の参拝客が多く通るので挨拶を交わしている。	自治会費を納め、地域の一員として活動している。日々の散歩では近隣の皆さんと挨拶を交わしている。春、秋のお彼岸には「おはぎ」を作り、近隣住民の皆さんに届けて喜ばれている。また、地区公民館の作品展に利用者と職員で製作した「折り紙」「貼り絵」等を出品して好評を得ている。敬老会にはマジックショーのボランティアが来訪した。今後も各種ボランティアの来訪を計画している。更に、飯田地区4中学校の生徒が職場体験で来訪し、食事、レクリエーション等で利用者との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2024年は地元の中学生や、マジックショー披露のボランティアを受け入れを再開した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットに基づいて対応や対策等のアドバイスをいただき参考にさせていただいた。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表、ホーム関係者が出席して奇数月の第4金曜日に開催している。利用者状況、近況や事故・ヒヤリハットの報告、意見交換等を行ってサービスの向上に繋げている。なお、運営推進会議の中で「虐待防止委員会」を開催している。民生委員の方との連携を深める中で地域内の他の民生委員との関係強化にも繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地元の民生委員の方の定期的な訪問時に相談やアドバイスをいただきサービスの向上に取り組んでいる。	市の長寿支援課には事故・ヒヤリハット報告等を速やかに行うと共に、分からない事の確認等で連携を取っている。地域包括支援センターとは入居相談等で連携を取っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪しケアマネージャーが対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない介護に努めてはいますが、仮に拘束が必要と認められる場合には、ご家族様と相談の上で同意書を得るようにしている。	法人として身体拘束に対する指針があり職員間で共有し、拘束の無い支援に取り組んでいる。玄関は安全確保の為施錠している。帰宅願望の有る利用者が若干名いるが、職員が話をお聞きして対応している。身体拘束に対する研修会を年1回行うと共に、毎月の職員会議の中で身体拘束適正化委員会を開いており、拘束に対する意識を高めて日々の支援に取り組んでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常起こりうるハラスメントと思われる言葉にも目を向けて何が虐待なのか、職員会議などで改めて検討し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」という言葉は使用しないが、職員会議の際には入居者様の尊厳や主張が守られているか、意見交換をしたり確認するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に見学、説明しご理解いただいた上で入所していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から管理者が現場に関わって、ご家族様の面会では話を聞いたり相談に乗って意見や要望を聞き運営に反映できるようにしている。	家族の面会は事前に連絡を頂いた上で、人数は3名位で15分位を目安に行っている。ホームでの生活の様子は写真入りのお便り「げんき通信」で家族にお知らせしている。併せて運営推進会議の開催案内を全家族にお届けして出席して頂けるように努めている。また、長年の懸案であった家族会を季節の良い時期に開催したいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から管理者は職員との関わりを大切にその場で職員の意見や提案を聞き入れるようにしている。また、必要であれば理事長に進言するようにつとめている。	月に1回職員会議を開催している。連絡事項、行事計画、行事報告、各種勉強会、事故・ヒヤリハット報告、意見交換等を行って業務内容の向上に繋げている。法人として人事考課制度があり、職員は年1回自己評価シートを用い自己評価を行い、それを基に管理者が上長評価及び個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自己評価をアンケート方式で行ってもらい、更なる向上心を持って勤務ができるように就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や毎日の申し送りの中で、職員の介護力の向上につながるような内容について話し合い、実践に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2025年からは機会があれば情報共有などをしたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの入居者様の生活状況を踏まえ、安心して過ごすことができるように、ご本人の声にしっかりと耳を傾け信頼関係を築くことができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてからなるべく早い段階で入居者様の様子を報告し相談を聞きながら意見や要望が言える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況や状態を把握し、それを職員間で共有しケアに繋げている。ご家族様には入居後のご本人の状況を詳細に連絡しています。また、その後のサービス導入にも柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に笑い、日々を楽しく暮らしていくことができるように、職員はご本人とのより良い人間関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様にはご家族様と同じ思いで寄り添いながら、また、ご家族様と共に支えていくことができるような関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の生活歴とともに、これまで大切にしてきた場所や地域等との関わりを大切にして、その生活習慣を尊重するようにしている。	家族の了承を得た知人、親戚等の面会がある。大晦日や正月に自宅に泊まれる方もいる。また、職員が付き添って買い物に出掛ける方もいる。美容師経験のある職員が在籍しており、様子を見ながらカットを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事などの時間は職員と一緒に飲食をし、多くの会話で入居者様同士との関係が円満にいくように努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性がなくなっても相談や支援ができるように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向、または生活習慣等からケアの方針を決め、入居者様本位の介護計画を作成している。	全利用者が自分の想いを伝えられる状況にある。食べ物選び等の利用者の希望に沿えるように日々の支援に取り組んでいる。「貼り絵」等の作品も利用者全員で製作し、作品を飾って楽しんでいる。また、ユーチューブで昔懐かしい音楽を楽しんでいる。日々の生活の中で気付いた事柄については個人記録に纏めて記入すると共に、職員間で情報を共有している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前面接をしたり、多方面のサービス提供をしている方から情報収集したりしてこれまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	顔色や、食事の有無、排泄状況を見ながら日々の会話やバイタルチェックを通して入居者様の心身の状態把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催してモニタリングを行い、それをもとに見直し、ご本人やご家族さまの要望を取り入れた介護計画書を作成している。	全職員で利用者一人ひとりの状況把握に努めている。家族の希望は面会時や電話で伺い、ケアプラン更新時に合わせてサービス担当者会議を開いている。会議では意見を出し合ってモニタリングを行い、ケアマネージャーがプラン作成している。入所時は家族からお聞きした情報も参考に3ヶ月のプランを作成し、様子を見ながら長期目標6ヶ月に繋げている。状態に変化が見られる時には適宜見直しを行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個別の「介護記録」を毎日記載し、朝礼などで勤務を交代する際には必ず申し送りを行い、職員同士の情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの提供や緊急時の医療連携などを行い、柔軟な支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安全に暮らしていくことができるように、地域の民生委員の方と意見交換をしながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望を尊重し、往診またはご家族様による受診ができるように支援している。そのため、かかりつけ医とは絶えず連絡し合い、良好な関係を築くようにしている。	利用契約時に医療機関についての状況を伺い、ホームとしての取り組みを説明している。現在は入所前からのかかりつけ医の往診対応を受けている方が数名いる。他の利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。看護師が往診時同行して居り、利用者の状況把握に努めると共に、協力医師と連携を図っている。その他の専門医の受診は基本的には家族に付き添って頂いている。歯科は必要に応じて協力歯科医の送迎で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の個別のケースにより、必要であれば訪問看護などが受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために医師や担当看護師、または相談員と綿密な連絡を取り、早期退院ができるように関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との話し合いはもちろんのこと、職員間でもしっかりと話し合いを持ち、重度化や終末期に向けた支援ができるようにしている。また、かかりつけ医との情報の共有に努めて、緊急時にすぐに対応できるようにしている。	重度化、終末期を迎えた際の指針があり、利用契約時に説明して同意を頂いている。終末期を迎えた時には家族の意向を確認の上で、話し合いの場を設けている。医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂いて医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に4名の看取りを行なった。看取り前には職員で対応について話し合っ心な籠った看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会があれば参加してもらおうようにしています。また、コロナやインフルエンザの感染症の折には、法人内の職員派遣などを通して的確な対応について話し合い、確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の連絡網を使っての避難訓練の実施を年に一回実施している。	消防署の参加の下、年2回防災訓練を実施している。3月3日には法人3施設合同での防災訓練を行った。消防署の指導の下、火災を想定して消火器の使い方、避難経路の確認、赤電話や火災通報装置を使って119番への通報訓練を行った。なお、6月には地震を想定した避難訓練の実施を予定している。また、年に2回緊急連絡網の確認訓練を行っている。「水」「レトルト食品」等を備蓄している。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳が守られているか、プライバシー保護を意識して接しているか、職員会議などで定期的に確認するようにしている。	人生の先輩に対して尊敬の気持ちを持って接している。トイレ介助の際には周囲に分からないようにお誘いしている。呼び掛け方は苗字か名前を「さん」付けで呼び掛けている。入室の際には「ソックと「利用者の名前の声掛け」を徹底している。また、職員会議等でプライバシー保護、虐待防止について話し合い、意識を高めて日々の支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のいろいろな場面で「どちらにしますか？」と選択しやすい言葉かけをするように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様には自分らしく、自分の時間を大切に日々すごしていただけるように支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おやつや、洋服を着る、などの際には選択肢を作りご本人に選んでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、それぞれに合った食事の提供ができるよう努めています。特に、季節の食材を取り入れることや行事食等に力を入れている。	利用者全員が自分で食事が取れる状況である。冷蔵庫の食材を基に利用者の希望も聞きながら職員が調理し、出来立ての物を提供している。利用者は力量に合わせて「配膳」「野菜の下処理」等を手伝っている。また、季節食として正月には「おせち料理」、雛祭りには「ちらし寿司」、お彼岸には「お寿司、ぼた餅」、誕生日には希望をお聞きして「肉料理やケーキ」を味わっている。クリスマスにはケーキと一緒に作って楽しんでいる。更に、秋には、地域特産の「干し柿」を作って味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、入居者様個々に合った食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症予防のため、毎食後の歯磨きや義歯の洗浄を実施している。必要であれば、歯科医師と連携して口腔内の清潔に努めるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄力を把握し、その人に合った排泄介助ができるように支援をしている。	排泄は一部介助が四分の三強、全介助が数名の状況である。排尿については起床時、食事前、就寝前の定時の声掛けの他にも様子を見ながら早めにお誘いしている。排便については何日か無い場合は主治医に相談して対応している。併せてお茶を中心にコーヒー、ヨーグルト等で1日800cc以上の水分摂取に取り組んでおり、排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を付け飲食物の工夫などで便秘解消の方法を探っている。それでもなお解消されない場合は主治医に相談して対応するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみの一つになるよう、また入りたいたいときに入れるように努めている。また、入浴剤を使用している。	一部介助が四分の三強、全介助が数名の状況であり、基本的には週2回の入浴を行っている。入浴拒否の方が若干名いるが、誘い方に工夫をしている。入浴剤を使用すると共に、「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等季節に合わせた入浴も楽しんで頂いている。また、入浴後には温かい「お茶」等で水分摂取に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で寝られない時はホールで休んでいただいたり、その人に合った対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個別に服用している薬のリストを作成し、職員全員に閲覧し、把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が食べたいものを言ったり、個々の趣味を活かせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に一度、馴染みの接骨院へ行く(送迎付き)、短い距離なら歩行が可能な方は天気の良い日には散歩に出かけるなどの工夫している。	外出時は自力歩行が2名、歩行器使用が3名、車椅子使用が4名の状況である。天気の良い時にはホームの周りを散歩したり、近くの商店まで買い物に出掛けている。コロナ禍も落ち着きつつあり、外出レクリエーションも少しずつ再開した。少人数に分かれて、春には元善光寺や桜の名所「麻績の桜」にドライブを兼ねて花見に出掛けた。秋には野底山森林公園まで紅葉見物に出掛けている。今年は感染状況に留意しながら外出レクリエーションの機会を増やして行きたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今までお金を所持していた方はいたが、現在は管理できる方がいないためそういったことはしていない。この先、自己管理できる方がいて、ご本人の希望があれば支援していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と連絡を取りたい方には電話を貸す、手紙を出したい方には代筆をする等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関に季節折々の花や、みんなで制作した作品を飾って居心地よく過ごして頂けるように工夫している。	玄関を入ると季節の花々や利用者と職員で制作した作品が出迎えてくれる。ホール内には食事テーブル、大型テレビ、ソファが置かれており、一日の大半を過ごす寛ぎの場となっている。天井、壁には季節の飾り付けや利用者の作品が多く飾られている。また、キッチンからホール全体を見渡せる造りとなっており、安全確保にも繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、気の合った入居者様同士で話ができるように座る場所を工夫したりして支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の生活歴を尊重し、馴染みのタンスやベットを持ってきていただくなど、自宅の環境と変わらない空間づくりに留意している。	掃除が行き届いた居室は十分な広さが確保されている。家族と相談の上で、使い慣れた筆筒、イス、テーブル、テレビ等を自由に持ち込んでいる。家族の写真やパッチワーク等の作品、観葉植物等に囲まれて思い思いの日々を送っている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の現行のレベルを維持していくため、歩行器などを使い個別の状態や状況に合わせて自立した生活が送れるように支援している。また、廊下やトイレには手すりを設置して安全にも配慮している。		